

1. 基本精神・学校教育目標

2. 学校像

私たちは、『地域の期待に応え、地域から信頼される学園』として、新しい時代に、『志と誇りを持って、いきいきと生きる人間』を育成します。	挨拶 日本一 —爽やかな挨拶・輝きあう挨拶—
--	---------------------------

3. 運営目標・評価項目・達成状況

運営目標	短期運営目標	評価項目	評価	運営目標の達成状況	
学力の向上 (学習)	学力の向上 希望を大切にした進路指導の充実 授業力の向上	・普通科では、1年生で新しいコースの定着を図り、丁寧なコース別少人数(習熟度別)学習や補習を充実させるとともに、担任や教科と連携して国公立大学合格の可能性のある生徒を発掘し、国公立大学50名以上の合格を目指す。 ・工業科では授業の質を高め基礎・基本を定着させ、かつ資格取得のための技能習熟度を向上させる授業や補習に取り組んで即戦力として通用する人材を育成し、20年連続就職希望者内定率100%を目指す。	4	4/5 少人数制の授業に加え、国公立大学向けの個別・グループ学習の充実を図り、学力の向上に努めた。授業を中心とした学力向上指導を充実させ、さらに補習や個別指導を徹底して、国公立大学に20名、難関私立大学に10名が合格した。国公立大学の合格者数は昨年度より倍増した。私立大学合格者数は114名から167名に大きく増加した。教科指導満足度は生徒94%、保護者93%となっており、進路別受験指導や面談に高い評価を得ることができた。さらなる教育効果や成果を目指してアクティブラーニングなど授業の展開方法の工夫・改善などを進めるとともに、関係分掌・学年・担任・教科会との連携を強化する。工業科では、授業の質を高め基礎・基本を定着させ、実社会で生きて働く力の育成に努めた。20年連続で就職希望者内定率100%を達成した。	
		・各生徒の進路設計を具体化して、自己の進路目標を達成するコース選択や学力・技能等を伸ばし、人生観・世界観・職業観・勤労観等を培う。 (アンケート、作文等)	4		三者懇談を2回以上、2者懇談も2回以上実施し、進路希望調査を定期的に行うことを通して、早い段階から進路目標を決定して面接・小論文指導に取り組み、就職試験や進学への推薦入試において一定の成果を上げることができた。また、進路指導満足度は生徒96%、保護者88%を達成した。
		・授業時間を確保しながら、10回以上の授業研究および思考力・表現力を重視した授業を実施し、各分野別の校内外の研修により教員の授業力を高める。 (アンケート、作文等)	5		研究授業は年間10回実施し、県立教育センターや大手予備校が開講している校外研修にも積極的に参加した。生徒に対する言語活動・思考活動の育成への取組みが見られる発表が多く、通常の授業にフィードバックし、授業力向上につながる取組みとなっている。
豊かな心の育成 (生活)	丁寧な生徒指導の推進 クラブ活動の促進 特色ある教育内容の創造	・「挨拶日本一」の指導を徹底し、礼節や規律を重んじる姿勢や目標に向かって努力する態度を養う。「生徒一人一人を大切に」「組織的に」「オープンに」を掲げ、挨拶・身だしなみ強化月間を年3回実施し、よりよい校風の樹立に全教職員が一体となって努める。	5	4/5 全教員が組織的に、一人一人の生徒に対して粘り強く指導を継続し、問題行動発生件数を3件にとどめることができた。また、挨拶が定着しつつあり、身だしなみも定期的に指導することで確実に良くなってきた。今後とも、統一した指導体制のもと、きめ細やかな指導を粘り強く継続していくことが大切であり、その上でさらに特定の生徒に対する指導を徹底していく必要がある。また、1学年のQU検査は新入生の学級運営をする上で有効であり、個々の生徒指導にも効果的であった。 文武両立を志向する生徒が大半であり、クラブ加入率は87%であった。さらに、生徒が各クラスに位置付き、目的を持って学校生活を送れるよう、担任とクラブ顧問とが緊密に連携していく必要がある。 アンケート調査では、体育祭93%以上、修学旅行92%以上の生徒が満足であるという結果が得られ、学習合宿においては、学習意欲の向上と効果的な学習方法の定着を促進することができた。また、高校1年生に導入している「7つの習慣」の授業について毎回の感想や発行している「7J通信」では肯定的なものがほとんどであり、生徒の満足度は100%に近づいている。	
		・スポーツ芸術コースの創設により、さらに文武両道を徹底し、クラブ加入率100%を達成する。	4		
		・体育祭・文化祭・修学旅行・学習合宿等を内容が充実し感動ある学校行事にする。また、高校1年生に「7つの習慣」の授業を実施しすべての教育活動に活用するとともに、グローバル教育を推進し、国際交流を積極的に行いコミュニケーション能力を培う。(生徒による感想文)	5		
学校体制の促進 (組織)	生徒募集の強化 機能的な体制の推進と人材の育成 説明責任の遂行	・広報・募集部のリードのもと、全教員が塾や小学校・中学校の児童・生徒及び保護者に積極的に働きかけ、協働して高校260名以上の入学者を確保する。	4	4/5 広報・募集部を中心に小・中学校訪問を、全教員で塾訪問を行った。また、「7つの習慣」を中心とする公開講座や地区別説明会を開催し、オープンスクールを実施するなど、本校教育の広報、生徒募集活動に努めた。入学生徒は内部進学を含め245名となり、目標の260名を達成はできなかったが、昨年度からは42名の増加であった。工業科の入学生が予定数より少ない状況が4年連続しているが、昨年に比べ13名増加した。分析・調査を踏まえて募集戦略の企画検討を行い、職員が一丸となって効果的な小・中学校訪問、塾訪問を徹底した。 「7つの習慣」を中心とした校内教員研修を25回以上実施した。また、校内LANの活用や平素からの連絡・調整を行って、職員会議、主任会議、教科主任会などの諸会議を必要最低限に抑え、生徒と接する時間を確保することができたことで教科指導やクラブ指導が充実した。さらに、各部長・学年主任が様々なアイデアを出し、組織の運営や生徒の指導に積極的・意欲的に活動するようになった。 教頭・事務室を中心に諸会計の明瞭化を促進し、会計に対する説明責任に係る意識の定着を図っている。また、今年度卒業生の全体満足度は、学年設定目標を90%以上としていたが、生徒92%、保護者93%であった。特に、学校行事・クラブ活動における感動的体験に関するコメントが多く寄せられた。	
		・校内外の研修を通して、教員が自己研鑽を实践するとともに、組織の一員として自発的、意欲的な動きや達成感を高めることを通して人材の育成を図る。	4		
		・会計等(監査を1回以上実施)を明瞭化して説明責任を果たす。儉約に努めた予算を執行し、教育効果を高める。	5		

4. 運営理念

即動く、動きながら考える。	教育の創造には、感動が必要である。
---------------	-------------------